

## <「第8回境港さかな・妖怪ウォーク」 見どころ>

### ① 夢みなと公園 (全コース)



1997年に開催された「山陰・夢みなと博覧会」の跡地に造られた公園で、すぐ横が海、遙か遠くに四季の大山を望むロケーションを誇り、オブジェや木で作られた「ボードウォーク」などが飾られ、ベンチシートも随所に設置されています。ゆっくりと潮風に当たりながらの散歩は気分爽快！釣リスポットとしても有名で、多くの釣リ客も訪れます。

公園内には、1日中楽しめる各施設が揃っており、高さ43mの「夢みなとタワー」からは、大山、美保湾、中海、島根半島など360度のパノラマを楽しめます。タワー内には、山陰のお土産を揃えた「みなとまち商店街」や、「タワーズカフェ」もあります。その隣りの水産物直売施設の「境港さかなセンター」や、日帰り温泉施設の「みなと温泉ほのかみ」もあり、ゆっくりお楽しみいただけます。

### ② 大漁市場なかうら (全コース)

境港に3か所水産物直売施設があり、そのうちの1つになります。カニをはじめとする鮮魚を中心に、一夜干・蒲鉾・お菓子や鬼太郎グッズなど、種類が豊富！！隣にお食事処を併設して、名物「かにトロ丼」が有名です。

また、高さ7.7mの「がいな鬼太郎」像もあります。



### ③ 海浜公園 (全コース)

釣りをする人をよく見かける場所で、ここからも美保湾や美保関の景色がよく見える隠れスポットです。



### ④ 中野港 (全コース)

漁船が停泊していて、みなとまちの雰囲気を感じることができます。天気の良い日には、美保湾と大山や美保関を同時に見ることができる、まさにビュースポットです。

また、5月～9月の第2土曜日に「さかいみなと中野港漁村市」が開催され、毎回大賑わいです。



## ⑤ 正福寺（全コース）

巨嶽山正福寺は曹洞宗のお寺です。正福寺の寺宝には、水木しげる先生の妖怪画の原点とされる六道絵（地獄絵・極楽絵）や、水木しげる記念碑もあります。

「第8回境港さかな・妖怪ウォーク」は、ここが各コースの分岐地点になります。



## ⑥ 皇の松（14 km、9.4 km）

「承久の乱」に敗れ、隠岐国へ流されることになった後鳥羽上皇は、その道中、この地に立ち寄り、松の下で歌を詠んだと伝えられています。この故事により昭和5年に現地に碑が建てられました。松は、弓ヶ浜半島で一番の大木でしたが、明治30年に枯死しました。現在は、5代目の松となっています。



## ⑦ 下ノ川沿い（14 km）

その昔、河童が棲んでいると信じられていた川。子供が溺れたりすると「河童にやられた」と大騒ぎになったそうです。この周辺にもいろいろな「かっぱ伝説」があり、河童愛好者有志が集まり、「大山隠岐かっぱ村」が開村されています。



## ⑧ 境漁港（14 km）

日本有数の水揚げ量を誇る魚の水揚げ基地。冬の「カニ」は水揚げ量日本一、夏の「マグロ」も有名です。毎年11月上旬に松葉カニが解禁され、本格的なカニのシーズンになります。近くに水産物直売施設の「境港水産物直売センター」があります。



## ⑨ 境台場公園（14 km）

その昔、黒船の来襲に備え築いた砲台でした。高台にそびえる「境港灯台」は明治28年に建設され、昭和40年に一度解体されましたが、再び港のシンボルとして平成3年に復元されました。毎年春に「境台場公園桜まつり」が行われ、白い灯台から見下ろす桜は絶景です。



## ⑩ 海とくらしの史料館 (14 km)

日本一のはく製水族館で、体長2.8mの愛らしい巨大マンボウ「チョコリン」や、謎の深海魚4.2mの「リュウグウノツカイ」などに会えます。この大会のチラシのさかなのイラストは、海とくらしの史料館のシンボルイラストです。



## ⑪ おさかなロード (14 km)

水木しげるロードからさらに東、海岸通りを歩いて「海とくらしの史料館」までの約1.5km。境港で水揚げされる様々な魚のオブジェが18体設置されています。

また、海岸通りは、鳥取県境港市と島根県松江市美保関町の間にある境水道が見え、漁船や、境港と隠岐の島を結ぶフェリーなどが往来します。漁船が停泊している様子はまさに港町ならではの風景です。



## ⑫ 水木しげるロード (14 km)

言わずと知れた大人気の観光スポット。毎年200万人くらいの観光客でにぎわっています。

2016年5月に、1993年オープン以来の来場者が累計3,000万人を突破しました。約800mに153体の妖怪ブロンズ像があり、水木しげる記念館も大人気。



## ⑬ 山陰鉄道発祥之地碑 (14 km)

1902年に、山陰地方最初の鉄道が開業したことを記念した碑。1900年、境＝鳥取＝姫路を結ぶ鉄道「山陰山陽連絡線」の建設のため、境港に資材が運ばれ、工事が始まりました。当初は「山陰西線」と呼ばれていましたが、1908年に安来＝米子間が開業したことにより、境港＝米子間は支線となり、その翌年に「境線」の名称がつけました。



## ⑭ 彫刻ロード (9.4 km)

境港市民の教育文化振興を図るため、また、憩いの場として集うことのできる場所として、「境港市民会館」が建設されました。そのホール正面には広々とした彫刻ロードが続いています。



### ⑮ 伯州綿畑（14km、9.4km）

今から300年以上前の江戸時代前期に栽培が始められたと言われ、かつては一大産地として全国に名を馳せた境港市の特産品であり、今でも江戸時代から続く「弓浜絨」の主原料として用いられています。

特徴は、繊維が太く弾力性に富み、保温性にも優れており、絨はもちろんのこと布団の中綿としての評価も非常に高い良質な綿です。

明治以降、輸入綿に押されて衰退していましたが、現在、地元の特産品として見直され、境港市は、「伯州綿」の復活を目指し、平成20年度から耕作放棄地を利用して「伯州綿」の栽培に取り組んでいます。

5月に種まきが行われ、初夏に黄色い花卉の花を咲かせ、9～12月に収穫されます。



### ⑯ 大同寺（全コース）

毛利・尼子の戦いにより、尼子方の亀井能登守秀綱が命を落としました。また、その子清若丸は、乳母とともに大同寺付近まで逃げ、小池に身を潜めましたが敵に見つかり、同じく、命を落としました。

その後、村内に不吉なことや伝染病が流行したため、村人たちは「若君や乳母の霊が成仏できずに迷っている」と信じ、この霊をまつり崇めました。

現在、大同寺には、このとき討死した尼子の従者などの塚を集めた「五輪墓」や、「乳母が池」「若君の松」「乳母の松」などがあります。

